

## 令和6年度 第2回 桐生市史編さん審議会 議事録

日 時：令和6年10月31日（木）午前10時00分～午前11時30分

会 場：桐生市立中央公民館403号室

出席者：別添名簿のとおり

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

### 3. 令和5年度下半期から令和6年度上半期までの事業報告について

第1回審議会にて報告したものと重なる部分もあるが、令和5年10月から令和6年9月までに行われた調査員等の委嘱や、各部会及び事務局による活動の報告を行った。

#### 【主な質疑応答】

##### [委員]

- ・広報きりゅうの裏面については部会の活動内容の報告とみてよいか。また編さん事業は、発信し続けることが大事だと思うが、こうした報告の機会は、また使えるのか。

##### [事務局]

- ・部会の活動報告というよりは、それぞれ執筆した各委員の専門知識を踏まえつつ、市史編さん事業での調査を進める中で新たに判明したことや、従来の解釈を見直すべきとの結論に至ったものなどを、一般市民にも読みやすい文章を心掛けて紹介させていただいた。広報を担当する課からは、裏面は他課から多くの利用希望が寄せられており、編さん室だけに提供し続けることはできないとのことで、第1期として15回掲載させてもらったが、来年度以降も掲載の機会を得られるよう申請をしていきたいと思っている。

### 4. 審議事項

#### ① 第2次『新編 桐生市史』構想イメージについて

各部会長に『新編 桐生市史』の刊行に向けて、各巻の構想イメージを前年度に引き続き作成してもらった。第1次と比べると、より具体的な目次のようになっている部会もあるが、まだどの部会も史資料調査の段階であるため、あくまで現時点でのイメージであり、この通りに資料編が刊行されるわけではないという説明を行った。

#### 【主な質疑応答】

##### [委員]

- ・近現代部部会の部会長が代わっているが、刊行に向けて部会の方針に変更はあ

ったのか。

[事務局]

- ・新しい部会長は、部会設立当初から専門委員を委嘱している人物で、他自治体史でも部会長を務めており、経験・実績共に申し分のない方である。方針の変更の有無についてだが、前任者が打ち出した、資料編1冊、通史編2冊といった、やや独特ともいえる編さん的方向性も堅持するとのことで、これまでの部会運営を踏襲したものとなるとみている。

[委員]

- ・近世部会の構想にある絵図等は、本文にいれるのか。それとも別刷り（付図）という形にするのか。

[事務局]

- ・絵図とは書いてあるが、実際に図版として絵図を入れるわけではなく何故その資料がつくられたのかが分かる文書史料を載せる予定である。絵図本体は特別編に「絵図・地図・写真」という巻の予定があるので、そちらで大きく取り上げるつもりである。

[委員]

- ・近世編の文化という項目に絵画がないが、取り上げられないのか。

[事務局]

- ・文化の項目で取り上げるのは、絵画や彫刻そのものではなく、それに関連した文書や典籍といった史資料になる。絵画について取り上げるなら、学問・文芸の項目内に入れることも考えられる。また、今後構想案を練る中で、絵画というジャンルが項目として出てくることも考えられる。

[委員]

- ・民俗編のイメージが少し硬い印象を受けるが、子どもでも手に取りやすいよう漫画版などの刊行は考えているか。

[事務局]

- ・民俗部会の聞き取り調査は、ご高齢の方を中心に生活全般に関わるお話を聞かせていただいている。本編の中身としては、お話しいただいた内容をまとめたものとなる予定で、学術性が前面に出るといったものではなく、読みやすいものになると考えている。漫画版についても広く市民への普及につながる形だと思うので、今後検討していきたい。

**② 基本計画の刊行スケジュールに入っていない、資料集、報告書、目録類の刊行について**

現在、市史編さんに向けて史資料の調査を進めている段階だが、そのなかで、貴重な情報だが本編に掲載するとなると、割けられるページの制約から不十分や尻切れトンボになってしまうものや、一部だけを切り取って掲載したので

は、史資料としての価値が損なわれてしまう可能性のあるものについて、別途報告書や資料集などを作成したいとの意見がいくつかの部会から上がっている。なかでも今回、次年度予算の要求時期にあたり、民俗部会からその刊行経費を予算計上するよう要望があった。そこで近隣及び先行自治体の事例を参考に、刊行の是非及び刊行するとした場合には、どのような形での刊行を目指すべきなのかを審議していただいた。

#### 【主な質疑応答】

##### [委員]

- ・いくつかの部会からも作成希望が上がっているとのことだが、民俗部会以外ではどのようなものがあるのか。

##### [事務局]

- ・近世部会からは、新居家文書の廻状留といった資料集を、原始古代部会からは、山上天笠遺跡の報告書を、といった話が出ている。

##### [委員]

- ・デジタル版のみ刊行した場合には、どのような不都合が予想されるか。

##### [事務局]

- ・今回の民俗調査報告書では、話者として調査協力してくれた方へ謝礼としてお配りするので、紙での刊行は避けられない部分であると思う。またこれまでリサーチした範囲に限られるが、他自治体でデジタル版だけを刊行したところは確認できていない。事務局としては、紙が先行して、一定期間の経過後にデジタル版を公開する併用の形が良いかと考えている。

##### [委員]

- ・オン・デマンド版の販売は考えているか。

##### [事務局]

- ・印刷製本したものが品切れ後に、ということであれば、何冊刷ったかにもよるが通常は、自治体の刊行物が品切れになることは滅多にない。ただ、『館林市史』には完売した巻もあるので、そのような場合には、注文を受けての「プリント・オン・デマンド」も検討する必要があるかもしれない。

##### [会長]

- ・現時点までの意見としては、報告書の刊行に反対する意見はなく、またその媒体は、紙とデジタル版の併用が望ましいようであるので、その方向で事務局には刊行を検討してもらいたい。

ところで紙での刊行となると冊数や印刷代等の予算見積もりが必要になるが、そのあたりの金額の概要はあるか。

##### [事務局]

- ・審議会からの提案ということで、紙とデジタル版という方向での刊行に向けて検討させていただく。また今後報告書等を刊行する場合には、今回の審議内容

を踏まえたかたちで進め、特殊な事案については、また別途審議してもらうこととさせていただきたい。

予算についてだが、他自治体の事例を踏まえると、まず刊行冊数は500冊程度を考えている。これは先に述べた、調査協力をしてくれた話者への謝礼分が含まれるためである。また、関係者や他自治体への配布等も考えると、この程度の冊数は必要になるかと考えられる。

金額に関しては、最近、原稿料は1ページ当たりで支払うものが主流となっており、額としては2,000円前後が相場のようである。報告書は1冊が大体180ページ程度を想定しているため、先ほどの冊数と合わせると、全部で90万前後の予算編成になるかと思われる。

## 5. その他

### ① 今後のスケジュールについて

- ・来年10月の開催を予定しているが、1年後のことなので、来年の8月頃に開催日時を調整して、委員各位に連絡をすることとなった。

### ② その他

#### 【主な質疑応答】

##### [委員]

- ・西小へ教育委員会が移動するにあたり、歴史的な資料等を展示ができるスペースもできるかと思うが、そのあたりの活用は文化財保護課等の連携なども含め考えているか。

##### [事務局]

- ・文化財保護課の具体的な動きについては把握していないが、他自治体では、市史の刊行に合わせて関連する遺物や史資料の展示を行っているところもある。市史本編の刊行は幾分先のことだが、今後は、そういったことも視野に入れて検討したい。

## 6. 閉会

以上